



# 社会言語科学会ニューズレター

第 2 号

1998年12月24日 発行：社会言語科学会事務局  
〒214-8580 川崎市多摩区東三田1-1-1 専修大学文学部永瀬研究室

## 第3回大会のご案内

日時：1999年1月30日（土）～31日（日）  
場所：日本女子大学 桜楓二号館・八十年館

社会言語科学会の第3回大会が開かれます。22件の〈研究発表〉、言語データをめぐる〈シンポジウム〉、人文科学研究と言語研究に関する〈招待講演〉など、充実したプログラムを準備しています。気楽な雰囲気での〈懇親会〉も開きます。

会員の皆さんはもとより、まだ会員でないたくさんの皆さんのご参加をお待ちします。お声をかけ合って、ご参加下さい。参加費は無料（予稿集代1,500円）です。

### プログラム

#### 第1日 1月30日（土）

9:00 受付開始

10:00 開会

午前部： 桜楓二号館4階ホール

〔研究発表1〕

司会：岡 隆（東京大学）

10:00 外国系児童の授業参加と言語学習—国語と日本語をどうつなげるか

堂寺 泉（東京大学大学院）

10:25 「じゃないですか」の使用にみる語用論的制約の遵守とポライトネスの関係

ケネラー佐智子（ジョージタウン大学大学院）

10:50 「とか」弁のコミュニケーション心理

辻 大介（東京大学）

11:15 幼児と母親との間の発話に見られる明確化要求—2歳から3歳の幼児を対象に

浜崎なおみ（中京大学大学院）

11:40 劇化の場面における非言語行動の分析—小学校2年生の授業実践の過程で

仁木博子（鳴門市立桑島小学校）

12:05 休憩 (理事・監事は理事会)

————— < 午後の部: 桜楓二号館4階ホール > —————

13:30 - 15:00 招待講演

演題「人文科学研究と言語研究」

講演者 水谷 修 (名古屋外国語大学)

〔研究発表2〕

司会: ジョン・マーハ (ICU)

15:15 方言接触場面における Linguistic-Accommodation

—イギリスに在住する日本人の場合 朝日祥之 (エセックス大学大学院)

15:40 日韓言語行動の対照研究—断り行動のモデル化をめざして

元 智恩 (筑波大学大学院)

16:05 ブラジル日系人の言語使用の実態

—南マット・グロッソ州ドウラードス市共栄移住地における

フィールド調査から

松尾 慎 (大阪大学大学院)

16:30 「一つの言語」が依拠するもの—オクシタン語/カタルーニャ語と

「バレンシア語」の関係の事例

佐野直子 (一橋大学大学院)

16:55 日本語習得と文化理解—中国人および台湾人留学生の日本語表現

にみる文化的要因

山口和代 (名古屋大学大学院)

18:00 - 20:00 懇親会 (桜楓二号館3階集会室)

////////// 第2日 ////////// 1月31日(日) //////////

9:00 受付開始

10:00 開会

————— < 午前の部 > —————

A会場 (八十年館 841 号室) / B会場 (八十年館 831 号室) で同時進行

〔研究発表3: A会場 (八十年館841号室)〕

司会: 片桐恭弘 (ATR)

10:00 Interruption と情報構造—英語の対談コンテキストにおける分析

土井香乙里 (大阪大学大学院)

10:25 あいづちにあらわれる日本語の義務的な特徴について

—日英語対照研究の観点から

新井香里 (日本女子大学大学院)

10:50 ゼミで見られる「対話」と「共話」の使い分け

—留学生と日本人学生の一比較

嶺川由季 (広島大学大学院)

11:15 対外国人言語行動の多様性 オストハイダ・テーヤ (大阪大学大学院)

11:40 日本語におけるジェンダー研究の再検討—セクシュアリテを中心に

マリィ・クレア (東京大学大学院)

12:05 日本語の破格的有題文について—その生成メカニズムと意識との関連

荻田修司 (神戸大学大学院)

- 〔研究発表4：B会場（八十年館831号室）〕 司会：尾崎喜光（国立国語研究所）
- 10:00 話者交替が果たす機能とは—メタコミュニケーションからの日英語比較  
内田らら（日本女子大学大学院）
- 10:25 接触場面における断わり行動の談話—言語管理プロセスの観点から  
武田加奈子（千葉大学大学院）
- 10:50 電話会話の終結部に見られる性差  
藤原智栄美（大阪大学大学院）
- 11:15 語用論知識の獲得における言語入力役割  
秦野悦子（川村学園女子大学）
- 11:40 『方言資料叢刊』を用いた全国挨拶行動の言語行動学的・方言学的研究  
齋藤孝滋・森節子・工藤香寿美（フェリス学院大学他）
- 12:05 石川県加賀地域における否定過去表現の社会言語地理学的研究  
富田彩子（金沢商工会議所）

12:30 — 休憩

————— < 午後の部： 八十年館 851号室 > —————

13:30 — 16:30 シンポジウム

【テーマ】言語データの新たな可能性：コーパスを作る・コーパスを使う

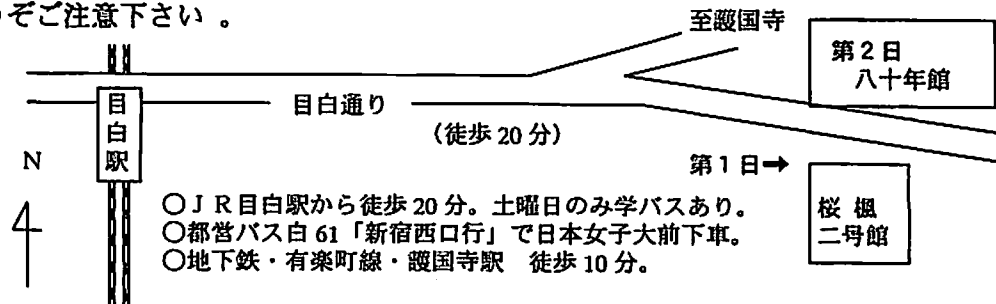
- コーディネーター：橋田浩一（電子技術総合研究所）
- 司会：井出祥子（日本女子大学）
- 問題提起：熊谷智子（国立国語研究所） 談話タグの設計  
綿貫啓子（(株)シャープ） モーションキャプチャによる対話データの収集  
橋田浩一（電子技術総合研究所） タグ付きデータの利用
- ディスカッサント：中 則夫（大阪学院大学）

16:30 閉会

<第3回大会プログラム 以上>

【第3回大会についてのご案内】

- 会場となる日本女子大学は、当日試験期間中にあたります。このため、大会会場が、  
第1日（桜楓二号館）は目白通り南側（目白駅から見て右側）、  
第2日（八十年館）は目白通り北側（正門側）のように変わります。  
どうぞご注意ください。



- 大会会場を手話通訳をご希望の方は、事前に学会事務局（専修大学永瀬研究室）までご連絡下さい。学会規定により、費用の一部を補助いたします。

## 第4回大会のお知らせ

第4回の大会を、以下のように開きます。  
あらかじめご予約に入れて、多数ご参加下さい。

日時 1999年7月24日(土)～25日(日)  
場所 専修大学 神田キャンパス

所在：東京都千代田区神田神保町3-8

交通：JR中央線水道橋駅から徒歩7分

地下鉄 東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」徒歩3分

半蔵門線・都営三田線・新宿線「神保町」徒歩3分

## 学会誌『社会言語科学』発刊

会員各位のお手元にはすでに届いていると思いますが、待望の『社会言語科学』の創刊号(第1巻第1号)が11月に刊行されました。

◎会員で2冊め以上のご希望の方、あるいは会員でない方や大学研究室等の機関で購入を希望される場合は、学会事務局(専修大学・永瀬研究室)まで直接ご請求下さい。

価格：一部につき4,000円(送料は別途実費をいただきます。)

連絡先：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学文学部

永瀬治郎研究室気付 社会言語学会事務局

電話 044-911-0688 Fax 044-911-1231

E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp または jnagase@ra2.so-net.nc.jp

### ◎ご投稿を!

- 学会誌編集委員会では『社会言語科学』への論文投稿をお待ちしております。
- ・通常の研究論文や書評・資料などの投稿は随時受け付けています。投稿・執筆規定は創刊号の表紙裏ページをご覧ください。
- ・また、第2巻第1号を<日本の言語問題>をテーマにした特集号として編集するため特集論文を募集しています。こちらの締め切りは1999年1月31日です。特集の趣旨や扱う領域については、創刊号の10ページの募集欄をご覧ください。
- ・いずれも、会員各位の積極的なご投稿・ご参加をお願いします。

### [学会事務局からのお願い]

- 平成10年度分の学会費をまだ納入されていない会員は、できるだけ早く納入してください。学会誌の送付やご連絡などを円滑に進めるためにご協力下さい。
- 新年度に向けて、勤務先やご住所の変わる時期に向かいます。住所・所属・立場などに変更が生じた場合には、学会事務局への速やかなご連絡をお忘れなく。

## 記録 《 社会言語科学会 夏のワークショップ '98 》

- ◎ 夏のワークショップが去る8月下旬に中伊豆高原で開かれました。
- ◎ 4人の講師を含め30数名が参加し、3泊4日の日程で、「対人コミュニケーションのメディアと記号化・解説の要因」というテーマで講義や実習・議論を行いました。
- ◎ 詳しい内容は『社会言語科学』創刊号67ページをご覧ください。
- ◎ 以下に、参加された会員の感想とアンケート結果を掲載します。

## 感想1

一二三朋子 (ひふみ・ともこ)

ワークショップ(以下、WS)参加は今回で4回になります。

正直なところ、いつもWSが近づくにつれ憂鬱になってきます。元来、怠惰で、家から一步も外に出ないで暮らせることを理想とする私としては、3泊4日もホテルに監禁されて勉強するなんて、考えるだけで食欲が落ちて来る程です。「今日キャンセルすればキャンセル料は〇〇円」、真剣に悩みつつ、キャンセルする踏ん切りも付かないまま、その日は近づいてきます。

ところが、葛藤の割には当日の朝ともなるとウキウキ家を出て、ホテルに着く頃には顔馴染みの面々と言葉を掛け合ううち、すっかりはしゃいでいます。意欲とエネルギーにあふれた人たちに圧倒されそうになりながら、スケジュールに変更があり予定外の自由時間が設けられるなどという発表がされはしないかなどと密かに願いながら、一日目が始まります。

私が初めて参加した1996年度夏のWSは、今回同様、講義中心の形式でしたが、気楽に聞かせていただきました。また、参加者の多くが初対面同士だったせいか、とても開放的で入り易かったこともあり、WSから帰ってからも、ずっと、「楽しかったなあ」という余韻が続きました。その後の2回(1997年春・夏)は、文字通りWSで、グループ活動形式、夜の自由な雑談まで削って没頭するグループが多く辟易しました。大変不見識ですが、何もそこまで真剣にならなくても、と思ったものです。そして今回、再び講義中心になり、ありがたく思っています。

WS参加の仕方は各人各様です。私のような怠慢な参加者もいれば、知的好奇心旺盛で食欲に吸収していかれる方も多いことと思います。そうでなければ、主催して下さる先生方に申し訳なさ過ぎます。幸い、最終日の皆さんの一言スピーチで随認し、安心いたしました。これからも幅広いWSであってほしいと思います。

ありがとうございました。

## 感想2

仲矢信介 (なかや・しんすけ)

学会のワークショップといえば、「専門についての知識を深める」目的で開催され、受講者もそのつもりで参加するのが普通だろう。去年までの「社会言語学研究会ワークショップ」は事実そのような内容だったし、社会言語学の枠の中で、極めて充実したものだった。

ところが、今年は、講師に心理学や異文化間コミュニケーションの先生方を招いてあるという。テーマはと見ると、「対人コミュニケーションのメディアと記号化・解説の要因-----社会性をどうとらえるか?」と、よく分からないが何やらハイカラで、魅惑的な字句が並んでいるのだった。私としては、まあ、心理に無縁な言語はないのだし、何か面白い話が聞けるだろう、ちょっと専門の論文で疲れたし、息抜きをかねて行ってみるか(失礼!)ぐらいのつもりで出かけたのだった。

これがとんだ心得違いだった。学際的な交流ということには、もっと本質的に重要な意味があることを発見し続けた四日間だった。簡単に言えば、ある専門分野にはその分野固有の方法・発想・思考の型があり、ときに別の分野に接してみることは、自分たちが半ば自動化・無意識化しているそれらをもう一度洗い直し、幅を広げるために有用なのである。(ついでながら、この「専門」という言葉がいやになった。ここでは「看板」というほどの意味で言う。)

たとえば、コミュニケーション過程をどうとらえるか。発達とは何か。直観とはどのようなものか。情動的一体感が発達においていかに重要か。以下、省略するが、その他もろもろの問題とその解決過程が説かれていく過程で、言語学的方法・発想への刺激を受けつつ、新しい研究テーマをいくつか見出すことができた。

そして、講義においても、夜の自由談話においても、先生方の人なつこく親しみやすい人柄が場を常になごませ、生意気をいろいろ申し上げてもらって顔一つなさらず、深夜まで付き合いくださったことが私を感動させた。講師の方ばかりでなく、受講者の方々もそうで、この場を借りて皆様に改めてお礼を申し上げます。(次頁に続く)

これで、社会学や教育学・政治学といった多様な専攻の人たちがもっと積極的に入ってくれば、いっそう活発で刺激的なワークショップ

ブになるだろう。いかがですか、そういう看板の方々、来年、中伊豆で遊びませんか？

[以上]

——【参加者へのアンケート結果から】

1. 企画内容に満足したか？ (回答 23)  
満足: 19    どちらかと言えば満足: 3  
どちらとも言えない: 1
2. 内容は難しかったか (回答 23)  
難しかった: 0  
どちらかと言えば難しかった: 7  
どちらとも言えない: 7  
どちらかと言えば難しくなかった: 5  
難しくはなかった: 4

3. 宿泊しない研修会・セミナーを企画することについて (回答 15)  
肯定的: 13    否定的: 2
4. 今後希望するテーマ  
・学際的な領域のテーマ  
・方法論や調査・実験の技法論  
・音楽 ・芸術 ・脳科学 ・医療  
・コミュニケーション ・敬語 など

——【99年春のワークショップ予告】——

次のような案で、もっか企画を固めつつあります。決定し次第、あらためてご案内を差し上げますので、ご予約をお空けの上、どうぞ多数ご参加下さい。

テーマ：言語関連の研究データの実験的な収集方法の多様性  
日時： 99年3月下旬      場所： 中伊豆高原ホテル  
講師の領域： 社会心理学・心理言語学・実験音声学など

ニュースレター担当：学会事業委員会(連絡先：国立国語研究所 杉戸清樹)  
電話：03-5993-7624 E-mail: ssugito@kokken.go.jp

## データの分析とモデリングで 必要な情報を獲得

統計解析ソフト

# SPSS 8.0 for Windows

新登場!

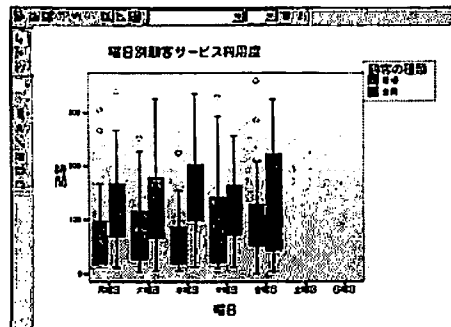
～データのパワーを魅せる～

SPSSは大学をはじめ、医療、マーケティング、品質管理など様々な分野にて世界標準として多くの人々に親しまれている統計解析ソフトです。特に教育期間においては社会学をはじめ、医学、経済/経営学など研究用、教育用として高いご支持をいただいています。

SPSS8.0 for Windowsで真のデータ活用がはじまる

- ① 使用が簡単、習得が簡単
- ② データアクセスが簡単(データベースキャプチャ・ウィザード機能)
- ③ パワフルな統計機能とモデリングを実現
- ④ インタラクティブ・グラフィック機能搭載
- ⑤ ピボットテーブル機能により“生きた”レポートを作成
- ⑥ インターネットに対応

※SPSSアカデミック・サイトライセンス(最小2台から)契約もあります。



**SPSS**  
Real Stats. Real Easy.™

エス・ピー・エス・エス株式会社  
(SPSS Japan Inc.)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39恵比寿プライムスクエアタワー10F  
Tel.03-5466-5511(代) Fax.03-5466-5621  
e-mail: sales@spss.co.jp

URL <http://www.spss.co.jp>